

宇美町



(2019年広報3月号)



福岡での昨年の節分寒波は最低気温マイナス2.5℃でしたが、今年は最低5.1℃、最高は18.9℃でした。今年は暖冬だろうと予測されていたが、気象庁でも想像以上だったようです。一方、地球全体を見ますと、今年の1月に北極の雪や氷の融解で気象パターンが大きく変化し、アメリカのミネソタ州では南極よりも低い体感温度マイナス53.9℃を記録したと聞き驚いていましたら、気候が間反対になるオーストラリアのアデレードでは、46.6℃を記録しています。日本全体では、春一番が北陸地方で最初に吹いたり、関東・た東北地方で記録的少雨であったりと報道されています。西日本の日本海側でも、降雪量の少なさは観測史上二位タイだったそうです。

地球温暖化に伴う気候変動は、暑さ寒さだけでなく、渇水や洪水のリスクも懸念されます。例えば、国内の政令指定都市の中で唯一1級河川がない福岡市は、これまでに何度も少雨に悩まされてきたことはご存じだと思います。地下トンネルを掘り筑後川の水を運んできたり、五ヶ山ダムを新たに建設したりして給水対策を次々に行っていますが、少雨が続けば次なる施策を

実行するのに多大な費用がかかりま
例年と比較して、気温が高かったり降水量が少なかったりすると、『異常気象だ!』と言いますが、自然界に異常はありません。『異常と思える気候を作り出していることに、これ以上知らんぷりをするのを止めましょう』と世界中で声が上がっているのです。宇美町からも地球温暖化防止策の提言やその実現のために、世界的リーダーシップをとれる人を輩出できないものかと思っています。そのような人を生み出すのは、私たち1人ひとりの思いと行動ではないでしょうか。



地球温暖化に伴う気候変動は、暑さ寒さだけでなく、渇水や洪水のリスクも懸念されます。例えば、国内の政令指定都市の中で唯一1級河川がない福岡市は、これまでに何度も少雨に悩まされてきたことはご存じだと思います。地下トンネルを掘り筑後川の水を運んできたり、五ヶ山ダムを新たに建設したりして給水対策を次々に行っていますが、少雨が続けば次なる施策を

文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆